

敬渝と懲毖

安政地震に関する碑が四国各地に建立されています。先人が子孫のために残したもので、被害の様子や教訓などが記されています。徳島県松茂町の碑には「敬渝」（けいゆ）の文字が、高知県香南市の碑には「懲毖」（ちょうひ）の文字が刻まれています。

■敬渝碑（徳島県松茂町）

安政元年（1854）11月4日、5日に地震が発生し、それに伴い津波や地鳴り、地割れ、などが起こったため、松茂の人々は木津山、大谷山に避難して山ごもりをしました。中喜来、川内の古川、沖島の善集寺では火災が発生しましたが、消火に当たることもできず、焼けるにまかせました。長岸の氏神の境内では1尺5、6寸の地割れが起こり、潰れた家は長岸で10軒、中喜来で20軒にも及びました。長原では50軒が全壊または大破し、渡海中の渡船が津波にあい男女4、5人が流死しました。豊岡新田などでは大手の堤防が決壊し、田畑が潮入となりました。こうした惨状を子孫に伝えて教訓とするため、三木与吉郎光治は中喜来の春日神社に敬渝碑を建立しました。敬渝とは「変をおろそかにしない」という意味です。＜松茂町誌編纂委員会編「松茂町誌上巻」1975年など＞



■安政地震の碑（高知県香南市）

安政元年（1854）11月4日辰刻（午前8時）、地震が発生しましたが、岸本浦の地曳網が流されたり、夜須浜で潮の変調が感じられる程度でした。本格的な地震は翌5日で、七ツ時（午後4時）に大地震が起こり、午後5時頃に1番波、2番波が、午後6時過ぎに3番波、4番波が到来し、午後7時に大地震が起こり最大の5番波がやってきて、流家が出ました。香我美町（現香南市）岸本の飛鳥神社境内に建立された安政地震の碑には、「幸甚なるか此地は神祇の加護によりて一人の怪我もなく」と記されており、他地域に比べて被害が少なかったことが記されています。しかし、碑には「懲毖」の文字が大きく刻まれ、後世の人々に地震・津波に油断しないように警告しています。＜香我美町史編纂委員会編「香我美町史上巻」1985年及び同「香我美町史下巻」1993年など＞

